

Weak Freese-Nation propertyについて

渕野 昌¹

On the weak Freese-Nation property

Sakaé FUCHINO¹

Abstract

We give a self-contained short survey on the study of the weak Freese-Nation property of partial orderings and discuss about some open problems in connection with this property.

1. 緒 言

本稿では, [1], [5], [6], [3], における weak Freese-Nation property に関する研究結果の概説を与え, この概念に関連した未解決問題について議論する. 本稿は1998年10月に大阪府立大学総合科学部数理・情報科学科の博士課程の学生を対象に行なった集中講義の講義録に手を加えたものである. weak Freese-Nation property の概念の歴史に関しては[5]または[6]を参照されたい.

2. Weak Freese-Nation property

半順序集合 (P, \leq) が weak Freese-Nation property を持つとは, $f: P \rightarrow [P]^{\leq \aleph_0}$ で次の性質を満たすものが存在することとする:

$p, q \in P$ で $p \leq q$ なら, $r \in f(p) \cap f(q)$ で $p \leq r \leq q$ となるものが常に存在する. 上の性質を持つ f を weak Freese-Nation mapping と呼ぶことにする. すぐに分かることの一つは:

命題 1 $|P| \leq \aleph_1$ なら P は weak Freese-Nation property を持つ.

証明 $P = \{x_\alpha : \alpha < \omega_1\}$ とする. $f: P \rightarrow [P]^{\leq \aleph_0}$ を,

$$f(x_\alpha) = \{x_\beta : \beta \leq \alpha\}$$

で定義する. $p, q \in P$ で $p \leq q$ のとき, たとえば, $p = x_\alpha, q = x_\beta$ で $\alpha \leq \beta$ となっているとすると, $x_\alpha \in f(p) \cap f(q)$ で, $p = x_\alpha \leq q$ となるから, f が weak Freese-Nation mapping であることが分かる. □ (命題 1)

weak Freese-Nation property を持たないような半順序集合の例としては, (ω_2, \leq) がある.

もっと一般的には:

命題 2 半順序集合 P が真の単調列 $(p_\alpha)_{\alpha < \omega_2}$ を持つなら, P は weak Freese-Nation property を持

¹ 北見工業大学工学部情報システム工学科

たない。

証明 $p_\alpha, \alpha < \omega_2$ が \mathcal{P} での真の上昇列であると仮定してみる。 $P' = \{p_\alpha : \alpha < \omega_2\}$ とする。各 $p \in P$ に対し、 $\alpha_p = \min \{\alpha < \omega_2 : p \leq p_\alpha\}$ として、 $g : P \rightarrow P'$ を $g(p) = p_{\alpha_p}$ で定義する。 P 上の weak Freese-Nation mapping f が存在するとき、 $\bar{f}(p_\alpha) = \{g(q) : q \in f(p_\alpha)\}$ で定義される写像 $\bar{f} : P' \rightarrow [P']^{\leq \aleph_0}$ は P' の weak Freese-Nation mapping となる。

以上から、補題の証明には (ω_2, \leq) が weak Freese-Nation property を持たないことを示せばよいことが分かる。

$f : \omega_2 \rightarrow [\omega_2]^{\leq \aleph_0}$ が weak Freese-Nation mapping だったとして矛盾を導く。 $(\beta_\alpha)_{\alpha < \omega_1}$ を帰納的に、 $\beta_\alpha = \sup \bigcup \{f(\beta_\gamma) : \gamma < \alpha\} + 1$ で定義して、 $\beta^* = \sup_{\alpha < \omega_1} \beta_\alpha$ とおく。すべての $\alpha < \omega_1$ に対し、 $\sup f(\beta_\alpha) < \beta^*$ となるが、 $(\beta^*) \cap \beta^*$ は可算だから、 $\sup f(\beta_\alpha) \cap \beta^* < \beta^*$ となる、今 $\alpha^* < \omega_1$ を $f(\beta^*) \cap \beta^* < \beta_{\alpha^*}$ となるようにとると、 $f(\beta_{\alpha^*}) \cap f(\beta^*)$ の元で β_{α^*} と β^* の間にあるものは存在しない、しかしこれは f が weak Freese-Nation mapping であるという仮定に矛盾する。

□ (命題 2)

系 3 $\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}$ が weak Freese-Nation property を持つなら、 $\mathfrak{b} = \aleph_1$ となる。

証明 もし $\mathfrak{b} \geq \aleph_2$ なら $\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}$ は長さ $\geq \omega_2$ の真の上昇列を持つから、命題 2 により、 $\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}$ は weak Freese-Nation property を持たない。

□ (系 3)

3. $\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}, (\mathcal{P}(\omega_1), \subseteq)$ etc. と weak Freese-Nation property

上の系で $\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}$ の weak Freese-Nation property が $\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}$ の代数的及至組合せ論的性質に影響を及ぼすことがわかった。この章では $\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}$ や他のいくつかの具体的な半順序集合と weak Freese-Nation property との関係について考察する。

補題 4

(1) $(\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}, \subseteq^*)$ が weak Freese-Nation property を持つのは、 $(\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}, \subseteq)$ が weak Freese-Nation property を持つ、ちょうどそのときである。

(2) $(\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}, \subseteq^*)$ が weak Freese-Nation property を持つのは、 $({}^\omega\omega, \leq)$ が weak Freese-Nation property を持つ、ちょうどそのときである。ただし $u, v \in {}^\omega\omega$ に対し、 $u \leq v$ は $\forall n \in \omega (u(n) \leq v(n))$ のこととする。

証明 (1) : $(\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}, \subseteq^*)$ の weak Freese-Nation mapping から $(\mathcal{P}(\omega), \subseteq^*)$ の weak Freese-Nation mapping が容易に得られ、逆も同様である：

$f : \mathcal{P}(\omega) / \text{fin} \rightarrow [\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}]^{\leq \aleph_0}$ が $(\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}, \subseteq^*)$ の weak Freese-Nation mapping であるとき、 $f^* : \mathcal{P}(\omega) \rightarrow [\mathcal{P}(\omega)]^{\leq \aleph_0}$ を、

$$f^*(x) = \{y \in \mathcal{P}(\omega) : y / \text{fin} \in f(x / \text{fin})\}$$

で定義すると、 f^* は $(\mathcal{P}(\omega), \subseteq)$ の weak Freese-Nation mapping となる。(ただし y / fin で y の fin に関する同値類をあらわす。)

逆に、 $g : \mathcal{P}(\omega) \rightarrow [\mathcal{P}(\omega)]^{\leq \aleph_0}$ が $(\mathcal{P}(\omega), \subseteq)$ の weak Freese-Nation mapping であるとき、 $\bar{g} : \mathcal{P}(\omega) / \text{fin} \rightarrow [\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}]^{\leq \aleph_0}$ を、

$$\bar{g}(x / \text{fin}) = \{y / \text{fin} : \exists z (z = *x \wedge y \in g(z))\}$$

で定義すれば、 \bar{g} は $(\mathcal{P}(\omega) / \text{fin}, \subseteq^*)$ の weak Freese-Nation mapping となる。

(2) : (1) により、 $(\mathcal{P}(\omega), \subseteq^*)$ が weak Freese-Nation property を持つことと、 $({}^\omega\omega, \leq)$ が weak

Freese-Nation property を持つことの同値性を示せばよい, まず $({}^\omega\omega, \leq)$ が weak Freese-Nation mapping f を持つと仮定してみる. $x \in \mathcal{P}(\omega)$ に対し, \mathcal{X}_x で x の特性関数を表すことにして, $g: \mathcal{P}(\omega) \rightarrow [\mathcal{P}(\omega)]^{\leq \aleph_0}$ を, $g(x) = \{v^{-1}[\{1\}]: v \in f(\mathcal{X}_x)\}$ で定義すれば, g は $\mathcal{P}(\omega)$ 上の weak Freese-Nation mapping となる.

逆に, $(\mathcal{P}(\omega), \subseteq)$ が weak Freese-Nation property を持つと仮定してみる.

g を $(\mathcal{P}(\omega \times \omega), \subseteq)$ 上の weak Freese-Nation mapping とする. $u \in {}^\omega\omega$ に対し, $x_u \in \mathcal{P}(\omega \times \omega)$ を $x_u = \{(n, m): m \leq u(n)\}$ とする. $B = \{x \in \mathcal{P}(\omega \times \omega): \forall n \in \omega \exists m \in \omega (x \cap \{n\} \times \omega \subseteq \{n\} \times m)\}$ として, $x \in B$ に対し, $\Phi(x) \in {}^\omega\omega$ を $\Phi(x)(n) = \max\{m \in \omega: (n, m) \in x\}$ により定義する. このとき, $f: {}^\omega\omega \rightarrow [{}^\omega\omega]^{\leq \aleph_0}$ を $f(u) = \{\Phi(x): x \in g(x_u) \cap B\}$ で定義すれば, f が ${}^\omega\omega$ 上の weak Freese-Nation mapping となっていることが容易に示せる. \square (補題 4)

命題 1 により, CH のもとでは, $(\mathcal{P}(\omega)/fin, \subseteq^*)$ は weak Freese-Nation mapping を持つ. 一方系 3 により $\mathfrak{b} \geq \aleph_2$ なら, $(\mathcal{P}(\omega)/fin, \subseteq^*)$ は weak Freese-Nation property を持たない. 実は, “ $(\mathcal{P}(\omega)/fin, \subseteq^*)$ を持つ” という命題は ZFC + \neg CH から独立であることが知られている: $V=L$ のモデルに Cohen reals を正規基数個付け加えて得られるモデルで $(\mathcal{P}(\omega)/fin, \subseteq^*)$ は weak Freese-Nation property を持つ ([6]).

系 3 は次の命題の (1), (2) に拡張することができる.

命題 5 $(\mathcal{P}(\omega)/fin, \subseteq^*)$ が weak Freese-Nation property を持つとするとき:

- (1) $\mathfrak{b}^* = \aleph_1$ となる.
 (2) $non(meager) = \aleph_1$ となる. したがって, $\mathfrak{s} = \mathfrak{e} = \aleph_1$ である. (3) $\mathfrak{a} = \aleph_1$ となる.

証明 (1): $X \subseteq {}^\omega\omega$ を \leq^* に関して unbounded な任意の集合とする. X の濃度 \aleph_1 の unbounded な部分集合が存在することを示せばよい.

\mathfrak{X} を十分に大きな正則基数として, $M \prec \mathcal{H}(\mathfrak{X})$ を, $X \in M$, $|M| = \aleph_1$ で, $[M]^{\aleph_0} \cap M$ が $[M]^{\aleph_0}$ で \subseteq に関し cofinal なものとする (たとえば internally approachable な M をとればよい).

仮定と補題 4 により ${}^\omega\omega$ の weak Freese-Nation mapping f が M の元としてとれる. このとき $X \cap M$ が unbounded であることを示す: そうでなかったとすると, $d \in {}^\omega\omega$ で $X \cap M \leq^* d$ となるものがある. $f(d) \cap M$ は可算だから, $F \in M \cap [{}^\omega\omega]^{\leq \aleph_0}$ で $f(d) \cap M \subseteq F$ となるものがある. 今, $d' \in M$ を $F \leq^* d'$ となるようにとると, f が weak Freese-Nation mapping であることから, $X \cap M \leq^* d'$ となり, これから $M \models “X \leq^* d’”$ がわかる. したがって, $M \prec \mathcal{H}(\mathfrak{X})$ により, $X \leq^* d'$ が帰結できる. しかしこれは X が \leq^* に関して unbounded であることに矛盾である.

(2): ふたたび \mathfrak{X} を十分に大きくとり, $M \prec \mathcal{H}(\mathfrak{X})$ を $|M| = \aleph_1$ で, $[M]^{\aleph_0} \cap M$ が $[M]^{\aleph_0}$ で \subseteq に関し cofinal なものとする. f を $\mathcal{P}(\omega)$ の weak Freese-Nation mapping とする. $M \cap \mathbb{R}$ が meager でないことを示す.

$Q = \{(q, r) \in \mathbb{Q}: q < r\}$ として, $f \in M$ を $(\mathcal{P}(Q), \subseteq)$ の weak Freese-Nation mapping とする. 各 $x \in \mathcal{P}(Q)$ に対し, $o(x)$ で x の各元 (q, r) に対応する开区間の和集合をあらわすことにする.

$D \in [\mathcal{P}(Q)]^{\aleph_0}$ を, 各 $d \in D$ に対し $o(d)$ が \mathbb{R} で dense になるようなものとする. $\bigcap \{o(d): d \in D\} \cap M \neq \emptyset$ が示せれば, このことから $\mathbb{R} \cap M$ が non-meager であることが示せるが, $|\mathbb{R} \cap M| = \aleph_1$ だから, これにより証明が完了する.

各 $d \in D$ に対し, $C(d) = f(d) \cap M \cap \{x \in \mathcal{P}(Q): d \subseteq x\}$ とおく, このとき, $o(d) = \bigcap \{o(x): x \in C(d)\}$ となる. さらに $\tilde{C}(d) \in [M]^{\aleph_0} \cap M$ を $C(d) \subseteq \tilde{C}(d)$ で, $x \in \tilde{C}(d)$ なら $a(x)$ が dense となるようなものとする. $\tilde{o}(d) = \bigcap \{o(x): x \in \tilde{C}(d)\} \subseteq M$; $\tilde{o}(d)$ は comeager で $\tilde{o}(d) \subseteq o(d)$ となる. $\mathcal{F} \in [M]^{\aleph_0} \cap M$ を $\{\tilde{o}(d): d \in D\} \subseteq \mathcal{F}$ で, すべての $X \in \mathcal{F}$ は \mathbb{R} の co-meager set となるよ

うなものとする。このとき、 $\bigcap \mathcal{F} \in M$ は co-meager だから、 $r \in M \cap \bigcap \mathcal{F}$ となるものが存在する。ところが、 $r \in \bigcap \mathcal{F} \subseteq \bigcap \{o(d) : d \in D\}$ だから、これによって、 $\{o(d) : d \in D\} \cap M \neq \emptyset$ が示された。

(3) : $X, M \prec \mathcal{H}(X)$, $f \in M$ を(2)でのようにとり、 $F : \mathcal{P}(\omega) \rightarrow [\mathcal{P}(\omega)]^{\leq \aleph_0}$ を、 $F(x) = \bigcup \{f(y) : y = *x \text{ または } y = *\omega \setminus x\}$ で定義する。 $F \in M$ である。 S_α , $\alpha < \omega_1$ を $[[\omega]^{\aleph_0}]^{\aleph_0} \cap M$ の枚挙として、pairwise almost disjoint な $[\omega]^{\aleph_0} \cap M$ の元の例 a_α , $\alpha < \omega_1$ をすべての $\alpha < \omega_1$ に対し次を満たすようにとる：

(*) どの $x = S_\alpha$ についても、すべての $u \in [\alpha]^{\leq \aleph_0}$ に対し $|x \setminus \bigcup_{\beta \in u} a_\beta| = \aleph_0$ となるなら、
 $|x \cap a_\alpha| = \aleph_0$ となる。

$\{a_\alpha : \alpha < \omega_1\}$ が maximal almost disjoint であることを示す。そうでなかったとして、 $b \in [\omega]^{\aleph_0}$ でどの a_α , $\alpha < \omega_1$ とも almost disjoint となるものをとる。 $\alpha^* < \omega_1$ を $F(b) \cap M \subseteq S_{\alpha^*}$ となるものとする。このとき、 b と a_{α^*} は almost disjoint だから、 $x \in F(b) \cap F \subseteq (a_{\alpha^*})$ で (i) $b \subseteq *x$; (ii) $|x \cap a_{\alpha^*}| < \aleph_0$ となるものがある。 $x \in F(b) \cap M \subseteq S_{\alpha^*}$ だから、(i)により、 x は α^* に対する(*)でのようなものとなっている。ところが、(ii)により、これは a_{α^*} のとり方に矛盾である。□(命題5)

次に、 $\mathcal{P}(\omega)$ が weak Freese-Nation property を持てば、 $\text{cov}(\text{meager})$ は大きな値をとることを示す。

$\text{cov}(\text{meager}) = \min \{ |F| : F \subseteq {}^\omega \omega, \forall h \in {}^\omega \omega \exists f \in F \{ |n \in \omega : h(n) = f(n) | < \aleph_0 \} \}$ だったことを思い出す。この特徴付けと以下の補題と定理16を組み合わせると、たとえば $2^{\aleph_0} \leq \aleph_{\omega+1}$ のときには、 $\mathcal{P}(\omega)$ が weak Freese-Nation property を持てば、 $\text{cov}(\text{meager}) = 2^{\aleph_0}$ となることが分かる (たとえば $\text{cf}(\text{cov}(\text{meager})) \geq \text{add}(\text{meager})$ だから $\text{cov}(\text{meager})$ は uncountable な cofinality を持つことに注意する)。あるいは、 $\rightarrow 0^*$ からのいくつかの帰結が成り立つときには 2^{\aleph_0} の値によらず上の等式が成り立つ。以下の補題で用いられている用語のうち“ σ -部分順序”については、系11の後を参照。

命題6 X を十分に大きな正則基数として、 $M \prec \mathcal{H}(X)$ を $[M]^{\aleph_0} \cap M$ が $[M]^{\aleph_0}$ で \subseteq に関し cofinal で、すべての $h \in {}^\omega \omega$ に対し、 $f \in {}^\omega \omega \cap M$ で $h(n) \neq f(n)$ がすべての $n \in \omega$ に対し成り立つようなものが存在するものとする。 $\mathbb{R} \setminus M$ が空でなければ、 $\mathcal{P}(\omega) \cap M$ は $\mathcal{P}(\omega)$ の σ -部分順序ではない。

証明 $x \in \mathbb{R} \setminus M$ とする。

$\mathcal{P}(\omega) \cap M \subseteq {}^\sigma \mathcal{P}(\omega)$ だったとして矛盾を導く。

このときには、 \mathbb{R} の無限閉集合の可算族 $C \in M$ で次の性質を持つものがとれる：閉集合 $c \in M$ が x を含むなら、 $c' \in C$ で $x \in c' \in c$ となるようなものが存在する： Q を命題5, (2)の証明でのようにとる。 $s = \{(q, r) \in Q : x \leq q \vee x \geq r\}$ とすれば、仮定から、可算集合 $D \subseteq \mathcal{P}(Q) \cap M$ で、 $\{y \in \mathcal{P}(Q) : y \subseteq s\}$ の \subseteq に関する cofinal subset となるものが存在する。 $D' \in [\mathcal{P}(Q)]^{\aleph_0} \cap M$ を $D \subseteq D'$ となるようにとり、 $C = \{\mathbb{R} \setminus o(d) : d \in D', \mathbb{R} \setminus o(d) \text{ は無限集合}\}$ とすればよい、ここに $o(d)$ は命題5, (2)の証明で定義されたものである。

$\{c_n : n \in \omega\}$ を C の M での枚挙とする。 $\{u_n^m : m \in \omega, n \in \omega\} \in M$ を、開集合の族で、各 $n \in \omega$ に対し、 $(u_n^m : m \in \omega)$ は pairwise disjoint で、すべての $m \in \omega$ に対し、 $u_n^m \cap c_n \neq \emptyset$ となるようなものとする。 $f \in {}^\omega \omega$ を $x \in u_n^m$ なら $f(n) = m$ がすべての $n \in \omega$ に対し成り立つようなものとする。 M に対する仮定により、 $g \in {}^\omega \omega \cap M$ で、すべての $n \in \omega$ に対し、 $f(n) \neq g(n)$ となるものが存在する。 $c^* = \bigcap_{n \in \omega} \mathbb{R} \setminus u_n^{g(n)}$ とすれば、 $x \in c^*$ だが、 c^* の構成から、すべての $c \in C$ に対し、 $c \not\subseteq c^*$ となる。これは C のとり方に矛盾である。□(命題6)

上でのような議論により, Chichon's diagram に現れる基数普遍量は, $(\mathcal{P}(\omega), \subseteq)$ の weak Freese-Nation property を仮定すると, 対応する Cohen model と同じように決定されることがわかる. [3] では, $(\mathcal{P}(\omega), \subseteq)$ の weak Freese-Nation property が Cohen models で成立する無限組合せ論を非常に良く反映する公理となっていることが示されている.

補題 4, (1) と同様の命題は $\mathcal{P}(\omega_1)$ と $\mathcal{P}(\omega_1)/[\omega_1]^{\leq \aleph_0}$ の間でも成り立つ. しかし, これは次で見るように, この 2 つの半順序集合が両方とも weak Freese-Nation property を持たないことが ZFC で示せる, という理由による.

ここに, $\mathcal{P}(\omega_1)/[\omega_1]^{\leq \aleph_0}$ は $(\mathcal{P}(\omega_1), \subseteq)$ のイデアル $[\omega_1]^{\leq \aleph_0}$ に関する同値類の全体で, 対応する半順序集合 $\subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}}$ は, $x \subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}} y \Leftrightarrow |x \setminus y| \leq \aleph_0$ で定義されるものである. $(\mathcal{P}(\omega_1), \subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}})$ を $[\omega_1]^{\leq \aleph_0}$ で割ることで得られる商構造を $(\mathcal{P}(\omega_1)/[\omega_1]^{\leq \aleph_0}, \subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}})$ であらわすことにする.

補題 7 $(\mathcal{P}(\omega_1)/[\omega_1]^{\leq \aleph_0}, \subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}})$ は weak Freese-Nation property を持たない.

証明 命題 2 により ω_1 の部分集合の $\subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}}$ に関する長さ \aleph_2 の上昇列が存在することが言えれば十分である. これは, 次の補題から直ちに導ける:

補題 8 $\gamma < \omega_2$ として, $(x_\alpha)_{\alpha < \gamma}$ を ω_1 の non-stationary subsets の族とすると, non-stationary な $x \subseteq \omega_1$ で $x_\alpha \subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}} x$ がすべての $\alpha < \gamma$ に対し成り立つようなものが存在する.

証明 明らか. □ (補題 8) □ (補題 7)

補題 9 $(\mathcal{P}(\omega_1), \subseteq)$ は weak Freese-Nation property を持たない.

証明 補題 8 と, $\mathcal{H}(X)$ の elementary submodels の手法を組み合わせることで証明が得られる.

$(\mathcal{P}(\omega_1), \subseteq)$ の weak Freese-Nation mapping f が存在したとして矛盾を導く. X を十分に大きくとり, $(\mathcal{H}(X), \subseteq)$ の濃度が \aleph_1 の elementary submodels の上昇例 $(M_\alpha)_{\alpha < \omega_1}$ と ω_1 の non-stationary subsets の $\subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}}$ に関する上昇例 $(x_\alpha)_{\alpha < \omega_1}$ を次を満たすようにとる:

- (a) $f \in M_0, \omega_1 \in M_0$;
 - (b) $x_\alpha \in M_{\alpha+1}$
 - (c) すべての non-stationary な $x \in M_\alpha \cap \mathcal{P}(\omega_1)$ に対し, $x \subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}} x_\alpha$
- このようなものがとれることは補題 8 によりよい.

$M = \bigcup_{\alpha < \omega_1} M_\alpha$ とする. このとき, 補題 8 により, non-stationary な $x^* \subseteq \omega_1$ で, $x_\alpha \subseteq_{[\omega_1]^{\leq \aleph_0}} x^*$ がすべての $\alpha < \omega_1$ に対し成り立つようなものが存在する. $\alpha^* < \omega_1$ を, $f(x^*) \cap (M \setminus M_{\alpha^*}) \neq \emptyset$ となるようなものとする. $\beta < \omega_1$ を $x_\alpha \setminus \beta \subseteq x^*$ となるようにとり, $y^* = x_\alpha \setminus \beta$ とする. (a) と (b) により $y^* \in M_{\alpha^*+1}$ だから, $f(y^*) \subseteq M_{\alpha^*+1}$ となるが, (c) により, $z \in f(y^*)$ で $y^* \subseteq z \subseteq x^*$ なら, $z \in M_{\alpha^*+1} \setminus M_{\alpha^*}$ となる. したがって, α^* のとりかたから, このような z に対し, z は $f(x^*)$ の元ではあり得ない. しかしこれは f が $\mathcal{P}(\omega_1)$ の weak Freese-Nation mapping であることに矛盾である. □ (補題 9)

次の補題と補題 7 を組み合わせると幾つかの興味深い応用が得られる.

補題 10 P, Q 順序集合として, $f: P \rightarrow Q, g: Q \rightarrow P$ は順序を保存する写像で, $g \circ f = \text{id}_P$ を満たすものとする. このとき, Q が weak Freese-Nation property を持てば, P も weak Freese-Nation property を持つ.

証明 $h: Q \rightarrow [Q]^{\leq \aleph_0}$ を weak Freese-Nation mapping とする. このとき, $h': P \rightarrow [P]^{\leq \aleph_0}$ を $h'(p) = g[h(f(p))]$ で定義すると, これは P 上の weak Freese-Nation mapping となる.

□ (補題 10)

系 11 (a) nonstat で ω_1 上の non-stationary ideal を表し, $x, y \subseteq \omega_1$ に対し, $x \subseteq_{\text{nonstat}} y$ を $x \setminus y$

が non-stationary となることとして定義する. $(\mathcal{P}(\omega_1), \subseteq_{\text{nonstat}})$ の nonstat に関する商構造を $(\mathcal{P}(\omega_1)/\text{nonstat}, \subseteq_{\text{nonstat}})$ で表す.

このとき, $(\mathcal{P}(\omega_1)/\text{nonstat}, \subseteq_{\text{nonstat}})$ は weak Freese-Nation property を持たない.

(b) $\mathcal{P}(\omega)/\text{fin}$ が weak Freese-Nation property を持つなら, $\mathcal{P}(\omega_1)$ を $\mathcal{P}(\omega)/\text{fin}$ に順序を保存して埋め込むことはできない.

証明 (a): 補題7により $(\mathcal{P}(\omega_1), \subseteq)$ は weak Freese-Nation property を持たないから, 補題10により, 順序を保存する $f: \mathcal{P}(\omega_1) \rightarrow \mathcal{P}(\omega_1)/\text{nonstat}$ と $g: \mathcal{P}(\omega_1) \rightarrow \mathcal{P}(\omega_1)/\text{nonstat} \rightarrow \mathcal{P}(\omega_1)$ で $g \circ f = \text{id}_{\mathcal{P}(\omega_1)}$ となるものの存在が示せればよい. $(a_\alpha)_{\alpha < \omega_1}$ を ω_1 の ω_1 個の stationary sets への分割とする.

このとき, $f: \mathcal{P}(\omega_1) \rightarrow \mathcal{P}(\omega_1)/\text{nonstat}$ と $g: \mathcal{P}(\omega_1)/\text{nonstat} \rightarrow \mathcal{P}(\omega_1)$ を,

$$f(X) = (\bigcup_{\alpha \in X} a_\alpha) / \text{nonstat},$$

$$g(Y/\text{nonstat}) = \{\alpha \in \omega_1 : Y \cap a_\alpha \text{ は stationary}\}$$

で定義すると, これらは順序を保存し, $g \circ f = \text{id}_{\mathcal{P}(\omega_1)}$ が成り立つことが示せる.

(b) $\mathcal{P}(\omega)/\text{fin}$ が weak Freese-Nation property を持つとして, $\mathcal{P}(\omega_1)$ の $\mathcal{P}(\omega)/\text{fin}$ への順序を保存する埋め込み $f: \mathcal{P}(\omega_1) \rightarrow \mathcal{P}(\omega)/\text{fin}$ があったとしてみる. このとき, $g: \mathcal{P}(\omega)/\text{fin} \rightarrow \mathcal{P}(\omega_1)$ を

$$g(a/[\omega_1]^{\leq \aleph_0}) = \bigcup \{x \in \mathcal{P}(\omega_1) : f(x) \subseteq [\omega_1]^{\leq \aleph_0} a / [\omega_1]^{\leq \aleph_0}\}$$

で定義すると, g は順序を保存し, $g \circ f = \text{id}_{\mathcal{P}(\omega_1)}$ となる. したがって, 補題10から $\mathcal{P}(\omega_1)$ が weak Freese-Nation property を持つことが帰結できてしまうが, これは, 補題9に矛盾する.

□ (系11)

4. weak Freese-Nation property の特徴付け定理

weak Freese-Nation property のいくつかの特徴付けを与える. このために, まずいくつかの概念を導入する: P を半順序集合として, Q を P の部分順序とする. このとき Q が P の σ -部分順序である (これを $Q \leq_\sigma P$ であらわす) とは, すべての $p \in P$ に対し, $Q \uparrow p = \{q \in Q : q \leq p\}$ は可算な cofinal subset を持ち, $Q \downarrow p = \{q \in Q : q \geq p\}$ は可算な coinital subset を持つこととする. ここに $X \subseteq Q \uparrow p$ が $Q \uparrow p$ で cofinal とは, すべての $q \in Q \uparrow p$ に対し, $x \in X$ で $q \leq x$ となるものが存在することで, X が $Q \uparrow p$ で coinital とは, すべての $q \in Q \uparrow p$ に対し, $x \in X$ で $q \geq x$ となるものが存在することである.

補題12 f を P 上の weak Freese-Nation mapping として, $Q \subseteq P$ が f に関し閉じている (つまり $\bigcup f[Q] \subseteq Q$ が成り立つ) とする. このとき $Q \leq_\sigma P$ が成り立つ.

証明 $p \in Q$ に対し,

$$C(p) = f(p) \cap Q \uparrow p$$

とする. $C(p)$ は可算だが, $C(p)$ は $Q \uparrow p$ で cofinal である: $q \in Q \uparrow p$ とすると, $r \in f(q) \cap f(p)$ で $q \leq r \leq p$ となるものがあるが, $r \in C(p)$ である. $Q \uparrow p$ についても同様に可算な coinital subset が与えられる. □ (補題12)

以下では, P が yet weaker Freese-Nation property を持つというのを, $f: P \rightarrow [P]^{\leq \aleph_0}$ で次の性質を満たすものが存在することとする:

$p, q \in P$ で $p \leq q$ なら, $r_p \in f(p)$ と $r_q \in f(q)$ で $p \leq r_q \leq r_p \leq q$ となるものが常に存在する.

上の f を P の yet weaker Freese-Nation mapping と呼ぶことにする. P が weak Freese-Nation

property を持てば, P の weak Freese-Nation mapping により, P は yet weaker Freese-Nation property を持つことが分かる. 実はこの逆も成り立つことを以下で示す.

補題13 (補題12の拡張) f を P 上の yet weaker Freese-Nation mapping として, $Q \subseteq P$ が f に関し閉じている (つまり $\bigcup f[Q] \subseteq Q$ が成り立つ) とする. このとき $Q \leq_{\sigma} P$ が成り立つ.

証明 補題12と同様に示せる. \square (補題13)

補題14 P が yet weaker Freese-Nation property を持つとする. このとき $Q \leq_{\sigma} P$ なら, Q も yet weaker Freese-Nation property を持つ.

証明 $f: P \rightarrow [P]^{\leq \aleph_0}$ を yet weaker Freese-Nation mapping とする. 各 $p \in P$ に対し, $I(p)$ を $Q \uparrow p$ の可算な cofinal subset とし, $F(p)$ を $Q \uparrow p$ の可算な coinital subset とする. このとき, $f': Q \rightarrow [Q]^{\leq \aleph_0}$ を

$$f'(q) : \bigcup \{I(p) : p \in f(q)\}$$

で定義すると, f' は Q の yet weaker Freese-Nation mapping となる: $q, q' \in Q$ で $q \leq q'$ とすると, $r_q \in f(q)$ と $r_{q'} \in f(q')$ で, $q \leq r_q \leq r_{q'} \leq q'$ となるものがとれる. $r'_q \in I(r_q)$ で $q \leq r_q$ となるものがとれるから, $r'_q \in I(r_q)$ で $r'_q \leq r_{q'}$ となるものがとれるが, f' の定義から, $r'_q \in f(q)$ かつ $r'_q \in f(q')$ である. \square (補題14)

補題14の証明から, P が yet weaker Freese-Nation property を持ち, $Q \leq P$ が, 各 $p \in P$ に対し, $Q \uparrow p$ の可算な cofinal subset を持つ, または, 各 $p \in P$ に対し, $Q \uparrow p$ の可算な coinital subset を持つなら, Q も yet weaker Freese-Nation property を持つことが分かる.

命題15 $(P_{\alpha})_{\alpha < \kappa}$ を半順序集合の (\subseteq に関する) continuously increasing chain として, 各 $\alpha < \kappa$ に対し P_{α} は weak Freese-Nation property を持ち, $P_{\alpha} \leq_{\sigma} P_{\alpha+1}$ となっているとする. このとき P_{κ} も weak Freese-Nation property を持つ.

証明 各 $\alpha < \kappa$ に対し, $f_{\alpha}: P_{\alpha} \rightarrow [P]^{\leq \aleph_0}$ を weak Freese-Nation mapping とする. このとき, weak Freese-Nation mapping の (\subseteq に関する) 上昇列 $(f'_{\alpha})_{\alpha < \kappa}$ を次のように帰納的に定義できる: $f'_0 = f_0$; Limit $\gamma < \kappa$ に対し f'_{α} , $\alpha < \gamma$ がすでに構成されているときには $f'_{\gamma} = \bigcup_{\alpha < \gamma} f'_{\alpha}$ とする. $\alpha < \kappa$ に対し, f'_{α} が構成できたとき, 各 $p \in P_{\alpha+1}$ に対し, $I_{\alpha}(p)$ を $P_{\alpha} \uparrow p$ の可算な cofinal subset とし, $F_{\alpha}(p)$ を $P_{\alpha} \uparrow p$ の可算な coinital subset とする. $p \in P_{\alpha+1}$ に対し,

$$f'_{\alpha+1}(p) \begin{cases} f'_{\alpha}(p), & p \in P_{\alpha} \text{ のとき} \\ \bigcup \{f'_{\alpha}(q) : q \in I_{\alpha}(p) \cup F_{\alpha}(p)\} \cup f_{\alpha+1}(p), & p \notin P_{\alpha} \text{ のとき} \end{cases}$$

として $f'_{\alpha+1}: P_{\alpha+1} \rightarrow [P_{\alpha+1}]^{\leq \aleph_0}$ を定義すると, $f'_{\alpha} \subseteq f'_{\alpha+1}$ で $f'_{\alpha+1}$ は $P_{\alpha+1}$ の weak Freese-Nation mapping となっていることが容易に確かめられる. \square (命題15)

定理16 任意の半順序集合 P に対し, 次は同値である:

- (1) P は weak Freese-Nation property を持つ;
- (2) P は yet weaker Freese-Nation property を持つ;
- (3) $\{Q \in [P]^{\aleph_1} : Q \leq_{\sigma} P\}$ は $[P]^{\aleph_1}$ の閉非有界集合を含む.
- (4) \mathcal{X} を十分に大きくとるとき, 任意の $M \prec \mathcal{H}(\mathcal{X})$ で $P \in M$ かつ $\omega_1 \subseteq M$ となるものに対し, $P \cap M \leq_{\sigma} P$ が成り立つ.

証明 (1) \Rightarrow (2) は明らか.

(2) \Rightarrow (3): $f: P \rightarrow [P]^{\aleph_0}$ を yet weaker Freese-Nation mapping とする. このとき, 補題13により, f に関して閉じた $Q \in [P]^{\aleph_1}$ は P の σ -部分順序となるが, このような Q の全体は $[P]^{\aleph_1}$ で閉非有界となる.

(3) \Rightarrow (1): $C \subseteq \{Q \in [P]^{\aleph_1} : Q \leq_{\sigma} P\}$ を $[P]^{\aleph_1}$ の閉非有界集合とする.

Claim 16.1 $R \subseteq P$ で $C' \subseteq C \cap [R]^{\aleph_1}$ が \subseteq に関し上に有向で, $\cup C' = R$ なら, $R \leq_{\sigma} P$ となる.

\vdash $R \leq_{\sigma} P$ でなかったとして矛盾を導く, このときには例えば $p \in P$ で, $R \uparrow p$ が可算な cofinal subset を持たないようなものが存在する. このときには, C' の元の上昇列 $(Q_{\alpha})_{\alpha < \omega_1}$ で, $Q \uparrow p$ は $Q_{\alpha+1} \uparrow p$ で cofinal でないようなものがとれる. このとき $Q = \bigcup_{\alpha < \omega_1} Q_{\alpha}$ とすれば, C の閉鎖性から $Q \in C$ だが, $Q \uparrow p$ は可算な cofinal subset を持ちえないから矛盾である. \dashv (Claim 16.1)

X を十分に大きくとる. このとき次を $|M|$ に関する帰納法で示すが, これの $M \supseteq P$ となっている場合から P の weak Freese-Nation property が帰納できる.

Claim 16.2 $M \prec \mathcal{H}(X)$ で $P, C \in M$ かつ $\omega_1 \subseteq M$ なら, $P \cap M$ は weak Freese-Nation property を持つ.

\vdash $|M| = \aleph_1$ のときには, 命題 1 によりよい. $\kappa > \aleph_1$ で, 上のような M で $|M| < \kappa$ となるものに対しては Claim が成り立つと仮定して, $|M| = \kappa$ のときを示す. M の continuous な elementary submodels の上昇列 $(M_{\alpha})_{\alpha < \kappa}$ を, $P, C \in M_0$; すべての $\alpha < \kappa$ に対し $|M_{\alpha}| < \kappa$; $M = \bigcup_{\alpha < \kappa} M_{\alpha}$ となるようにとると, $\alpha < \kappa$ に対し $P_{\alpha} = P \cap M_{\alpha}$ として, 帰納法の仮定と, Claim 16.1 から $(P_{\alpha})_{\alpha < \kappa}$ は命題 15 の仮定を満たすから, $P \cap M = \bigcup_{\alpha < \kappa} P_{\alpha}$ も weak Freese-Nation property を持つ.

\dashv (Claim 16.2)

(1) \Rightarrow (4): P が weak Freese-Nation property を持つとする. M を (4) でのようなものとする, $M \models$ “ P は weak Freese-Nation property を持つ” により, P の weak Freese-Nation mapping f で M の元となるものが存在する. $f \in M$ により $P \cap M$ は f で閉じているから, 補題 12 により, $P \cap M \leq_{\sigma} P$ が分かる.

(4) \Rightarrow (3): X を十分に大きくとり, $\mathcal{H}(X)$ の Skolem 関数の族を固定して, h をこの Skolem 関数の族に関する閉包演算子とする. $C = \{P \cap M : M \prec \mathcal{H}(X), |M| = \aleph_1, h(P \cap M) = M\}$ とすれば, C は $[P_{\alpha}]^{\aleph_1}$ の閉非有界部分集合となり, 仮定により $Q \leq_{\sigma} P$ がすべての $Q \in C$ に対し成り立つ. \square (定理 16)

系 17 P が weak Freese-Nation property を持つとする. このとき $Q \leq_{\sigma} P$ なら Q も weak Freese-Nation property を持つ.

証明 補題 14 と定理 16 によりよい. \square (系 17)

5. [6] で提起された問題の解決と未解決問題

[6] で PROBLEMS 1 ~ 5 として提起された問題は, 最近までにその殆どの解が得られているが, これについての短い記述を与えておく. 最後に我々が “Kitami List of Open Problems” と呼んでいる未解決問題のリストの中から weak Freese-Nation property に関連する問題について述べる.

Problem 1 ([6]). $(\mathcal{P}(\omega))$ が \subseteq^* に関する長さ ω_2 以上の上昇列を持たず, \aleph_2 -Lusin gap も存在しないなら, $\mathcal{P}(\omega)$ は weak Freese-Nation property を持つか [2] により, CH のモデルから出発して, \aleph_2 個の random reals を side-by-side に加えて得られるモデルでは $\mathcal{P}(\omega)$ は \subseteq^* に関する長さ ω_2 以上の上昇列を持たず, \aleph_2 -Lusin gap も存在しない. 一方 [7] ではこのようなモデルでは $\mathcal{P}(\omega)$ は weak Freese-Nation property を持たないことが証明されている.

Problem 2 ([6]). ZFC+GCH のモデルで ccc complete Boolean algebra で weak Freese-Nation property を持たないものが存在するか?

この問題の解答は肯定的である. [4] で, ZFC+GCH のモデルで, weak Freese-Nation proper-

tyを持たない ccc complete Boolean algebra を持つようなものが存在することが示されている。この証明には高い consistency strength が必要となるが、この命題の equi-consistency が何になるのかはまだ知られていない。

Problem 3 ([6]). $V[G]$ を Cohen reals を付加して得られるモデルとすると、 $V[G]$ で常に $\mathcal{P}(\omega)$ は weak Freese-Nation property を持つか？

この問題はまだ未解決である。ただし、[6] では $V=L$ のモデルから出発したときにはこの問題の解決は肯定的であることが示されている。

Problem 4, 5 ([6]). $\mathcal{P}(\omega)$ が weak Freese-Nation property を持つこととすべての ccc complete Boolean algebra が weak Freese-Nation property を持つことは同値か？

この問題の解は否定的である。特に Cohen models では $\mathcal{P}(\omega)$ は weak Freese-Nation property を持つが、ccc complete algebra で weak Freese-Nation property を持たないものが存在することが示せる ([4])。

逆に上の結果から：

Problem A: $\neg CH$ なら、ある ccc complete Boolean algebras で weak Freese-Nation property を満たさないものが常に存在するか？

という問題は自然のものに思える。

[3] では、W. Just によるある種の superatomic Boolean algebras のコーエン・モデルの非存在がすでに $\mathcal{P}(\omega)$ の weak Freese-Nation property から導けることを示している。

S. Shelah はコーエン・モデルで、次の問題でのような superatomic な Boolean algebra の非存在を示している。これが $\mathcal{P}(\omega)$ の weak Freese-Nation property から導かれるかどうかは未解決である：

Problem B: $\mathcal{P}(\omega)$ が weak Freese-Nation property を持つものとする。このとき、superatomic なブール代数 B で、 $\{\alpha < ht(B) : wd_\alpha(B) = \aleph_0\}$ が濃度 $\geq \aleph_1$ を持つものは存在するか？

参考文献

- [1] S. Fuchino, Habilitationsschrift, Berlin (1995), 1-86.
- [2] J. Brendle, S. Fuchino and L. Soukup, Coloring ordinals by reals, preprint.
- [3] S. Fuchino, S. Geschke and L. Soukup, On the weak Freese-Nation property of $\mathcal{P}(\omega)$, submitted.
- [4] S. Fuchino, S. Geschke, S. Shelah and L. Soukup, On the weak Freese-Nation property of complete Boolean algebras, preprint.
- [5] S. Fuchino, S. Koppelberg and S. Shelah, Partial orderings with the weak Freese-Nation property, Annals of Pure and Applied Logic, 80 (1996), 35-54.
- [6] S. Fuchino and L. Soukup, More set-theory around the weak Freese-Nation property, Fundamenta Mathematicae 154 (1997), 159-176.
- [7] S. Geschke, On σ -filtered Boolean algebras, Dissertation, Berlin (1999) 1-97.

Added in Proof: 上の Problem 3 は最近になって否定的な解が得られている。この結果は、[4] におさめられている。